

進入路つけいいいの場に

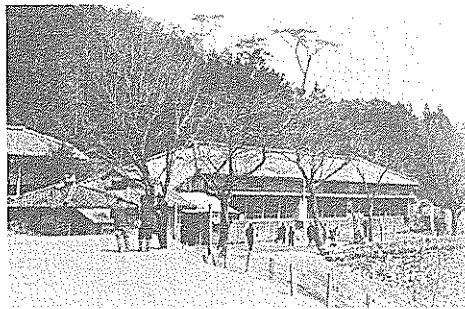
井の沢小・中学校跡地

せつかくの市有地、しかも、最高の見晴し台を有効に利用しよう——こんな声が上がって久しい、井の沢小・中学校跡地約二十アール（中谷字カライワ）。

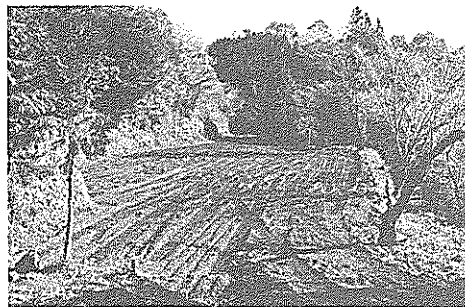
とりあえず、車が入れるようにしようと、地主のご協力をいただいて、一月二十四日、地元の学校卒業生約二十名が道路用地（五百平方メートル）と跡地の「刈りあけ」に汗を流しました。

学校の名残りは、校庭の石垣と門柱、それに桜の木数本ぐらいで、

昭・22年ころの井の沢小学校



造成された跡地



集まったみなさんは、①便所のそばに墓があり、幽霊が出るという話があった②石垣は、井の沢の石を使って、才谷の「オオハマクニマ」という方が築いた③学校では、夜間の勉強がありよく泊った……などと、なつかしそくに話してくれました。

黒滝に移転して三十年近くたちましたが、井の沢学校跡地は、その素晴らしいよう望を再び私たちに提供するために、生まれ変わりました。

すぐ近くには、小さいながらも泉があり、少し手を加えれば、キャンプ場としても使えるそうです。南国市北部の観光資源のリード役として、きれいに使いたいもの

普及所から⑥

早期稲育苗のポイント

枯病等の障害が発生し、年々増加しています。これは、ひとつには「慣れ」から育苗方法が年々粗放になっていることが原因とも言えるようです。

そこで最近の育苗障害の種類からみて、次のことに特に注意してください。

①箱土は山土を使用する。山土は酸度五・〇―五・五（弱酸性）のものが良く、極端な砂質や粘土質は使用しない。良い土かどうかの

です。
井の沢小・中学校の元校長・溝淵忠廣さん（大埔）の話
なつかしいですね。昭和二十年九月から二十四年三月まで、小学校と中学校の校長として勤めました。

一番の思い出は、二十二年、生徒たちといっしょに米をつくり、

それを三升の小豆にかえ、宮中に献上したと、同じ年の十二月二十日、苦勞のすえ、全部落へ電氣をひき、盛大な落成をしたことです。翌日未明が南海大震災で、見晴しの良い所だけに、その被害の大ききも一望で、強く印象に残っています。とにかく、あそこは「ながめ」が素晴らしい。

検査は農業改良普及所へどうぞ。
②古い箱や被覆用のむしろは、オースサイド水和剤一、〇〇〇倍液で噴霧消毒をする。

③早期栽培では、ムレ苗や苗立枯病の発生が多いので、肥料混入と同時に床土に箱当たりタチガレン粉剤五gとダコニール粉剤十五gを混入する。

④ハウス内にビニール、ぬれむしを敷き、その上に土台をし、播種覆土した箱を十五箱以内に積み重ね、ぬれむし、ビニールで包み込む。被覆内の温度は、上段より三分の一付近を測定し、30℃以上ならないよう、必要に応じてビニールを除くか日覆いをする。二、三日出芽状態をみて箱の積みかえを行う。

⑤ハウス内に並べて緑化を開始する。

る時期は、芽の長さが一―二cm程度になった時、開始二―三日間は直射日光をさけるためコモ等で被覆する。

約一週間は昼間20―15℃に保つ。この時期の管理で田植時の草たけと苗質がほぼ決まるうえ、極端な低温にあつたり、昼夜の温度差が大きいとムレ苗（立枯症）が発生するので特に留意する。

⑥田植七日前ころからビニールハウスのサイドを開け、徐々に外気に慣らしながら十分日光に当て苗を硬化させる。

要は箱土の選定と消毒、温度管理がポイントで、以上の六点を特に留意すれば失敗することなく健苗が作れます。

くわしいことは、南国農業改良普及所（社会福祉センター隣、☎42277）へご相談ください。